

令和元年度 磐田市立豊岡南小学校 学校評価書

重点	評価指標	目標値	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
進んで学ぼう	授業の内容がよく分かる。	90	A	○「授業内容がよく分かる」は、目標を達成している。土台となる学級づくりや授業の工夫(ICT機器を活用した授業や振り返りの充実、等)に取り組んできた成果と思われる。今後も「学級力向上プロジェクト」を推進していくことで、学習の基盤となる学級づくりを充実させていきたい。 ※「進んで～」という項目がやや弱い。特に「進んで自分の意見や考えを発言する」においては、児童の評価が低い。児童は自分が進んで発表しているかということで自己評価しているように感じる。授業でペアやグループ、全体での話し合い活動を効果的に取り入れ、児童が自分の意見や考えを伝え合うことよさを実感できるようにしていく。	・園では、「自分の思いを伝える」→「他の子の意見を聞く、認める」→「相互にやり取りを行う」というコミュニケーションの段階を踏んでいく。しかし、学校では「進んで自分の意見や考えを発言する」ことに課題があるという実態がある。園でも学校でも、児童が自信をもって自分の考えや意見を表現する支援を工夫していきたい。
	進んで自分の意見や考えを発言する。	80	B		
	進んで教師に質問したり、自分で調べたりして学習している。	80	B		
	進んで読書をする。	80	B		
	毎日、宿題や予習・復習の自主学習、読書などの家庭学習に取り組んでいる。(学年×10分+10分)	85	B		
思いやりをもとう	学校が楽しいと感じている。	90	A	○どの項目も児童は目標値を達成している。児童の間には、互いを思いやる、認め合う良好な関係が築かれていて、「学校が楽しい」につながっているのではないと思われる。実際の学校生活において、困っている子に優しく接したり、ルールを守ろうと周りに呼び掛けたりするよい姿が見られる。教師がこうした児童のよい表れを見付けて、称揚することを心掛けていくことで、児童にもそのよさを実感させたい。 ※児童のあいさつの数値が高いが、実際の学校生活において教師が挨拶をしても返さない等、課題を感じる。来年度、特に挨拶に重点をおき、場面を絞り、具体的な取り組みを決めて指導していく。	・「進んであいさつができる」とは、どのような子供の姿をめざしているのか、教師も子供も共有していきたい。また、あいさつは、学校だけでなく、家庭や地域と一緒に進んで取り組んでいくことが大切である。
	進んであいさつをしたり、あいさつを返したりしている。	90	B		
	友達を思いやった「ふわふわ言葉」をつかっている。	85	A		
	学級(学校)は、互いにルールを守り、協力して生活している。	85	A		
	自分と異なる意見や考えを認めている。	90	A		
元気づく体ろう	めあてをもって進んで運動に取り組んでいる。	90	B	○清掃活動に一生懸命取り組むことができている。児童を称揚する場を工夫し、学校のよさとしていきたい。 ※新体力テストの記録が磐周平均を下回っている種目が多い。テストの項目がそれぞれの領域でどのように関わっているかを意識して、年間の体育科の授業を行う必要がある。また、授業や体育的行事において、児童がめあてをもって取り組めるよう、教師が仕掛けを工夫し、意識を高めていきたい。また、昼休みの遊びが偏っているため、運動場の使い方や使える用具を工夫するなどして、様々な遊びを通して体力の向上につなげていきたい。 ※「自分の体のことを考えて食べている」において、保護者と教師の評価が低い。給食時に、学年の適切な量の米飯を持ってきていない、おかずの量を減らす等の実態も見られる。食習慣については、家庭との連携が必要なため、機会を捉えて保護者への協を求めていきたい。	・水泳大会や陸上大会の体育的な対外行事がなくなり、課外活動で培ってきた子供の体力や情操面の向上を、教育活動の中でどのように高めていくかを考えていきたい。教育課程の中で、校内や校区で記録会などを設定することも可能ではないか。子供たちが目標をもって、運動に取り組める手立てを工夫したい。
	早寝・早起きをしている。	80	B		
	自分の体のことを考えて食べている。	85	B		
	廊下や階段を歩いている。	85	B		
	清掃に一生懸命取り組んでいる。	90	A		
その他	夢や目標に向かって頑張っている。	85	A	○9割の児童が、「道徳の授業が楽しい」と感じている。児童は、道徳科の授業で、自分の考えをもち友達と話し合うことを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができることを実感している。教師が道徳科の授業研究を通して、授業改善を重ねてきた成果であると言える。来年度は、道徳科の授業で育んできた児童の学びに向かう姿勢を、他教科にも広げていくようにしたい。 ○「先生は子供のことを理解して指導に当たっている」と答えた児童や保護者は、9割を超えている。各職員がコミュニケーションを図り、情報共有し、深い児童理解に努めてきた。また、「チーム南」を合い言葉に、組織的に個に応じたきめ細かな指導や支援を行い、教師と児童、児童同士の信頼関係が築かれたことが評価につながったと考えられる。 ※豊岡北小学校の児童や豊岡中学校の生徒との交流活動を行っているが、中学校生活を楽しくしていると回答する6年児童が目標に達していない。児童は、学習や部活動等何かしら不安を抱えていると思われるので、中学進学に伴うストレスを少しでも減らすことができるよう、手立てを考えていきたい。	・校長が学校経営の評価指標としている3項目である「(子供にとって)楽しい」「(保護者にとって)応援しがいがある」「(職員にとって)働きがいがある」学校をめざし、今後も取り組んでいってほしい。
	中学校での学習や生活を楽しみにしている。(6年)	90	B		
	外国語活動の授業が楽しいと思っている。	90	B		
	道徳の授業が楽しい。	90	A		
	学校に相談できる友達や先生がいる。	90	B		
	先生は子供のことを理解して指導に当たっている。	90	A		
	農作物を育てる体験やひろせ学習を通して、地域の歴史や自然、産業について関心がある。	85	A		
	学校だよりや学年だより、参観会や学校公開日を通して、学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。	90	B		
学校関係者評価を受けてのまとめ					
<p>学校運営協議会(学校関係者評価委員会)では、授業や行事の参観、学校評価の結果から、今年度の教育活動に対する良い評価をいただいた。また、委員の皆さんからはそれぞれの立場から忌憚のない御意見をいただき、学校として改善すべき方向性を検討することができた。本校が目指していく子供の姿や教育課程について、学校は保護者や地域の人々に分かりやすく説明し、理解を深める努力が必要であると考え。それぞれの役割と責任を明確にしつつ、3者の連携・協働を強化していくことで、本校が目指していく子供の資質・能力を共に育てていく体制を整えていきたい。</p>					